

25/12/15

耳川の環境悪化深刻

美郷で
専門家報告

日向、入郷地域を流れる耳川の環境保全について考える会議がこのほど、美郷町西郷区であった。川沿い自治体や漁業関係者のほか水力発電事業を手掛ける九州電力の関係者ら計約30人が出席。専門家の調査により、耳川の河川環境悪化が深刻な状況にあることが明らかにされ、出席者からは早急な対策を講じる必要性を訴える声が上がった。

かつて耳川はアユの好漁場だったが、漁獲量は1991年をピークに減少。60年代以降のダム建設などによる環境の変化が一因と考えられるという。会議では、耳川中流部の環境調査を行った「たかはし河川生物調査事務所」（高知県）の高橋勇夫代表が、川床に泥堆積が見られアユの餌となる藻類の生育量が少ないことや、発電取水により一部

で著しい減水が見られることなどを指摘し「水生生物にとって危機的な状況。環境保全や自然との共生が課題と認識されている中、これほど劣悪な状況が放置されてきたことが驚き」と警告した。

西郷漁業協同組合の森川吉太郎組合長は「深刻な現状を重く受け止め、早急にできる事から対策を取っていきたい」と話していた。